

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700048		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホームかぶとむし		
所在地	長崎県平戸市田平町深月免405番地1		
自己評価作成日	令和6年10月9日	評価結果市町村受理日	令和6年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境で、施設前の田畑が季節を感じさせてくれます。また、敷地が広く、ご入居者が自分らしい生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平戸市田平町に立地する当ホームは高台で長閑な環境の中にあり、入居者はゆったりと穏やかに過ごされている。現管理者は昨年4月に法人内の異動により赴任し、これから団塊の世代が重度な要介護状態となる時期が到来することを見据え、法人の方針の下、エビデンスに基づいた科学的介護を実践すべく、専門インストラクターによる指導・研修を受け、「水分」「食事」「運動」「排便」の4つの基本ケアを徹底し、事例検討を行いながら長期的な視点でホーム全体で同じ方向性を持って取り組んでいる。地域交流としてホームは自治会の特別会員となり廃品回収や町内清掃に参加し、近隣住民と入居者が顔見知りになるきっかけづくりや、小学生が訪問して歌を披露してもらったり、市主催の福祉祭に入居者が作品を出展したり、近隣高校の初任者研修の実習生を受け入れるなど取り組まれている。職員は入居者が生き生きとした活動で笑いの絶えない生活を継続できるよう日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所とユニットに掲示し毎日の朝礼で唱和し具現化に向け日々の業務に従事している	法人、事業所理念を玄関ロビー、各ユニットへ掲示している。また毎朝の朝礼時に、参加者で唱和し、都度認識するように心掛けている。	法人・事業所理念を玄関スペースの一角に掲示しており、その場所で毎朝朝礼を行い職員が唱和している。理念の下、4月と9月に各職員のスキルアップ・キャリアアップ目標を立て、半年に1回自己評価し、管理者がコメントを書いて目標達成度を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の廃品回収の協力や市の花いっぱい運動の参加、市主催の福祉健康まつりでは作品を出展している。また、コロナが第5類に移行し、近隣の小学生との交流もできるようにしている	近隣小学校の運動会の見学や交流も行っている。区内の廃品回収への協力、また市内全域で実施される花いっぱい運動への参加、市開催の福祉祭りへの制作物掲示や準備、後片付けに協力している。地区内の一斉清掃にも、管理者が参加されている。	ホームへ小学校から訪問があり、歌を披露してもらったり、小学生より手紙をもらい壁に掲示している。市主催の福祉祭に入居者の作品を出展したり、移動図書館の利用や、近隣高校の初任者研修の実習生を受け入れている。地域の自治会ではホームが自治会の特別会員として廃品回収や町内清掃に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っている。また、運営推進会議を通して参加されたご家族代表や面会に来られたご家族に対しては行っているが、地域に向けてはできていない	町内高等学校のHH実習生の受け入れ・実施指導を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に二ヶ月に1回運営推進会議を開催している。活発な意見交換が出来るように努め、サービスの質の向上に活かしている。会議で出た意見などの内容は議事録として書面に残すと共に、得た情報は全職員へ伝達している	2ヵ月に1回実施し、地域の推進委員・ご家族代表・市役所担当課への情報共有を行っている。	運営推進会議には市長寿社会課職員、近隣住民、家族代表が参加し、ヒヤリハットや事故等のほかホームの状況について報告後、出席者の質疑に応じており、地域との風通しの良い関係性の構築に努めている。質疑応答内容について議事録に記載し、全職員にも周知すると共に家族には家族会開催時に伝えている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき実情について定期的に報告を行っている また、随時事故報告や介護保険制度などについて担当者と連絡をとることで、連携を図っている	管理者を中心に運営推進会議を含め、諸手続きの際等に機会を設けて、情報共有を図っている。	運営推進会議に市長寿社会課職員が参加しておりホームの実情を伝えている。介護認定更新手続き等で管理者が市役所に出向いており、各種加算請求等制度上の不明な点を質問したり、地域包括支援センターに立ち寄り、ホームの空床状況等について相談を受ける等、管理者を中心に市町村と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動を止めるのではなく、さりげなく声かけたり、行動を共にするなど行い、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう努めている。職員は認知症の知識を深める事で身体拘束防止に繋げている	事業所で内容を整理、作成した身体拘束、虐待防止マニュアルに基づき、月一回開催のユニット会議に意識の徹底・統一を図っている。また事故発生時の対応策に関しては、特に留意し意見交換を行い、まとめる等している。	年2回及び新規採用時に身体拘束に関する研修を実施している。3か月に1回身体拘束防止委員会を開催し、日頃から身体拘束をしない支援に努めている。各ユニットにおいてもマニュアルに沿った身体拘束・虐待について職員の意識付けを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議では冊子をもとに理解を深め職員同士意識し合い防止に努めている。また、管理者からの助言指導を得る機会を設けている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については説明を受け理解はしているが、利用される方についての対応は管理者が行っているため活用には至っていない	成年後見制度については、実際利用されているご利用者もいるが、詳細内容については、把握しきれていない。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する内容は管理者が行い十分な説明をした上で契約している。その際、ご利用者様やご家族の要望も出来る限り応えるようにしている	管理者が担当し、必要な情報提供を行いご家族との意識のずれが、起きないように意識の共有を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月1回、運営推進会議を実施しご家族代表や市の職員など外部者の意見交換を行い運営に反映させている	年1回の家族会に運営状況を報告、その際し次応答にて、自由にご意見をいただく機会を設けている。	運営推進会議に参加する家族代表より意見を窺ったり、面会時や電話連絡時に合わせて意見や要望を聞き取っている。聞き取った内容は申し送りノートやケース記録に残し、他の職員と情報共有を図っている。年1回家族会を開催しており、交流の場を設け出席者から直接意見を聞き取る機会を設けている。	コロナ禍により入居者の感染防止のため、家族との面会を制限せざるを得ない期間が長期に渡っていることもあり、あらためて職員と家族とのコミュニケーションを職員側から積極的に意識して行い、信頼関係の構築に繋げることを期待する。入居時における重要事項として第三者評価の受審状況を家族等へ説明することが求められており、今後、重要事項説明書において第三者評価の受審状況が分かるように、第三者評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価を通じて家族に対しアンケート調査を実施し、家族の意見等を汲み取る機会となる旨を説明し協力を求めることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者はユニット会議やリーダー会議に同席し職員の意見を聞く機会を設けている	毎月行われているユニット会ではホーム長が同席し、年度末にある総会時に、本部長が同席。職員の意見を聞く場を設けている。その時に出た意見等は本部へ伝えている。	職員は毎月の会議を通じて入居者の支援内容等に関し意見を出し合い、日々の実践に結び付けている。年1回、法人の本部長同席の下会議を行い、職員意見を法人本部に持ち帰り、運営の改善が図れるよう検討している。当外部評価調査時の職員ヒアリングにおいても、職員の意見が述べやすい職場環境であることが窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自キャリアアップシートの作成や管理者との面談を随時行い、さらに管理者から上司への報告の流れとなっている	Do-CAPシートを使用し、職員とホーム長が面談を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、ユニットリーダーを中心に一般職員の教育・指導に努めている	認知症BPSD消失研究会に参加し、月1回のリモート研修を経て、利用者様を通じてケアの向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はリモート研修で随時行い交流する機会を設けている	コロナ禍であった為、他法人の施設との交流は出来ていなかった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントを行い入所直ぐは出来るだけ多くコミュニケーションを図るように配慮し、お気持ちに寄り添い支援を行っている	ホーム長とリーダーが計画作成担当者が面談を行い、入所する際に不安に思う事や、要望を聞き取りを行っている。それを職員へ伝達し、サービスへ反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望など、お話を傾聴し不安が軽減できるような声かけ及び支援を行い信頼関係を築いている	計画担当者が中心になり、職員と共にご家族様の要望に応えられる様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名： みつばち)	実践状況(ユニット名： てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にはアセスメントを元に情報収集を行い、ご家族の要望とご本人の自立支援に必要な支援を見極め、ユニット職員で共有し統一したケアに努めている。また、都度状態に合わせた支援・介護を行っている	管理者兼ケアマネが主に面談し、ご本人やご家族の要望・希望を伺い、ユニット職員に申し送りを行い、情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な手作業や、洗濯物干し、おしぼり巻きなど、残存機能の維持と共同生活の一員としての役割、楽しみなどを感じて頂くよう心掛けている	ご利用者本位の支援を心掛けている。日頃の会話や、何事も一緒に取り組む事で関係性を良いものにしていく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ後より、居室でゆっくりした時間を過ごすことはできていないが、事務所横にて一定時間の面会や、要望によってご家族同伴の外出や外泊なども対応している	面会に来られた際は、挨拶し現状報告や気になる事、やって欲しいこと等無いか確認を行っている。出来るだけ、ご本人・ご家族の意向に沿えるように、支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族への現況・状態報告、定期的な広報誌の配布など行っている。また、ご家族からの制限が無ければ、親戚や友人等の面会も可能であり、面会をして頂いている	ドライブの際、生まれ育った地域等に行くことで昔を思い出されている。又、家族以外の面会も行っている。	入居者の生活歴は入居時に本人や家族より聞き取り把握に努めている。職員は日々の介護実践を通じてその方の馴染みの場所や人の話を聴き、記録に残し、職員間で情報を共有している。馴染みの場所へのドライブや、以前から行きつけの美容室には必要に応じて家族にも依頼して継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の性格を把握し、職員が間に入り話題の提供や歌・ゲームなどを行っている。また、笑顔や発語が出るような声かけを多くするよう努めている	洗濯物干しや、洗濯物たたみ、新聞折り等の軽作業はフロアで行いご利用者同士が協力し手伝われている。間に職員が入る事であまり話さないご利用者も会話に入れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご家族とお会いする機会もあり、その際は気軽に様子を伺ったり、近隣で困っている方が居られる場合など相談に応じている	施設外でご家族に会った際は挨拶や近況の話を聞いたり、施設に居た時の話をして交流をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や動作の支援時など、声かけを多くし現在の生活に不自由さを感じていないか、困っていることはないか、希望など伺いご利用者の要望に応じている。意思疎通が困難なご利用者はご家族への意向を伺っている	各ご利用者との会話から思いを汲んだり要望を聞いている。又、面会時等ご家族も含め話を聞いている。	職員は日常の入居者との会話や動作により入居者の思いを把握し、思いを伝えることが困難な入居者には身振り、手振りで伝え把握している。意思疎通が困難な場合は家族にも確認しながら本人本位の支援に努め、その支援内容により介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に管理者がご本人やご家族と直接面談を行い、今迄の生活歴や生活環境、また、これまでのサービス利用の経過等を聞き取り、アセスメントを作成し職員で情報共有を行っている	入所前の面談や事前にもらうアセスメントで、これまでの経過を把握し職員と情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、一日の過ごし方や状態観察をケアノートに記録し、変化があった際には報告・連絡・相談を行い情報共有に努めている	日々の状態観察や、モニタリング、職員への聞き取り、申し送りノートの活用などで状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時にご利用者・ご家族に意向を伺い、担当者会議にてご利用者がより良い暮らしができるよう、現状に即したケアプランを作成している	ユニット会において、職員間の意見を出し合い、本人様と関係者に話をし、介護計画に取り入れている。	職員は担当している入居者の生活上の支援のほか、月1回モニタリングを担当している。モニタリングやアセスメント実施後、入居者や家族からの聞き取り等で把握した意向を取り入れ、計画作成担当者が介護計画案を作成している。計画内容はサービス担当者会議で検討し現状に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり日々の様子の記録(ケアノート)と申し送りノートを活用し情報共有を図っている。また、毎月のユニット会議にて意見交換を行い、介護計画の見直しを行っている	日々の活動状況を記録に残し、気付いたことは申し送りノートに記載し、情報共有している。モニタリングにおいて、情報を纏め、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2回の全体レクリエーションを大ホールにて行い、体操やゲーム等で身体を動かして頂き、またカラオケ機器を使用し歌を歌って楽しめる様に取り組んでいる	ご利用者様の状態に変化が生じた際には、職員間で話し合いを行い、対応しています。又、ご家族様にも施設での状況をお伝えし、要望等があれば対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年2回、近隣の小学校より花を頂いたり、花苗をプランターに植えていただき「花いっぱい運動」を実施している 他、移動図書館も利用している	地域の公共施設への外出や、地域の小学校行事の見学等を徐々に再開しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には管理者より、施設の協力医がある事を事前に説明する。また、従来 of 病院の方が良いとご要望があればご意見を尊重している。	定期的にかかりつけ医院へ受診へ行かれ、現在の状況をお伝えしています。受診結果により、施設の対応や内服の相談を行い、心身の変化の応じた医療支援をしています。	入居以前からのかかりつけ医、ホームの協力医、他科受診については遠方の医療機関への受診以外は管理者が同行して支援している。入居以前のかかりつけ医をホームの協力医に変更する場合は、紹介状等、医療的情報を収集し、入居者や家族が不安なく医療を継続して受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化があった場合には、都度、管理者へ報告し指示を仰いでいる。また、定期受診以外にも、必要に応じて臨時受診を行っている	看護師資格を有する職員に相談をし、ホーム長へ受診の要請を依頼しています。不在時にはかかりつけ医院へ状態を伝えて、受診させてほしい旨を伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が随時入院医療機関と情報共有し、ご利用者が安心して治療し、早期に退院できるように医療関係者と関係作りをしている	ホーム長が病院と連絡を取り合い、情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLの低下がみられた際は、段階的にご家族と話し合い支援できる範囲を説明している。必要であれば医療機関や介護施設に協力を依頼している	現時点で重度や終末期に該当するご利用者がおらず話し合いはしていない。もし重度化した場合はご家族にその都度状況の説明を行い必要な介護計画を立てて報告し職員間で情報を共有し適切な介護が出来るように取り組んでいく。	医療的ケアが必要となった場合は医療機関と連携を図り、病院への転院や、家族の希望によりホームで最期を希望する場合は 看取り期の介護計画を作成し、支援内容を職員全体で共有し支援を行っている。重度化した場合など段階に応じて特別養護老人ホームや病院への移設等、家族と相談し希望に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、所轄消防署指導のもと、AEDを使用した救急救命訓練実施している	年に1回市消防署から来設していただきAEDの使用方法についてや心臓マッサージの仕方等の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署指導もと避難訓練を実施している。避難経路を確認し迅速に避難できるようにしている。地震に備え防災備品を準備している	年に2回市消防署から来設していただき日中想定と夜間想定避難訓練を実施しており、実際にご利用者にも参加していただき実践的な訓練を行っている。また、防災設備の点検を実施してもらい、防災設備が稼働しているか確認している。	年2回、消防署立ち合いの下、昼間・夜間を想定した消防訓練を参加可能な入居者と共に実施している。職員は消火器の使用について習得し、初期消火ができるよう訓練を受けている。訓練後に消防署員から胸骨圧迫、心肺蘇生、AED操作について指導を受けたことが記録により確認できる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の関わりの中で、言葉かけや態度で、人格を傷つけることのないよう対応している。	女性の方で男性の介助が嫌な人は女性職員が介護にあたるようにしたり、ご利用者の意見を伺いながら対応している。特に入浴介助と排泄介助はプライバシーを尊重し他の人からは見えないように配慮し個別ケアに取り組んでいる。	共有スペースに法人の方針である「秩序のルール」を掲示し、毎朝唱和している。「秩序のルール」は、挨拶の仕方、言葉使い、電話応対等、接遇についてを詳細に記載されており職員の行動規範となっている。職員は入居者を尊重する意識を持ち、言葉かけや態度で、人格を傷つけることがないよう努めている。職員は入職時に個人情報漏洩等を防ぐための教育と誓約書を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのご利用者に合わせ、時に相談しながらできるだけ希望に添えるように支援し自己決定できるような環境づくりをしている	日常より会話を大事にし、ご利用者のお気持ちや要望・希望などを伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者の生活リズムに合わせた支援をしている。共同生活の為、十分に対応できない場合もあるが、他のご利用者との関係性を考慮しながら対応している	おひとりおひとりの状態を把握しフロアや居室でそれぞれご自分のペースで過ごしていただいている。又、常日頃より会話をする事で、どんな事を望まれているのか等考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問理容を受け入れることが出来ている。衣類は、できる方はご自身で服を選んで頂いている。できない方は昔の生活歴を把握しその人らしい身だしなみができるように心掛けている	洋服は入浴日事に毎回違う服を準備して、各自似合った服を着用していただいている。外出時や行事時は特にお化粧をしたり、おしゃれな洋服を着て頂き気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や行事等は特別メニューで提供している。メニューにはご利用者の要望をとり入れるようにしている。また、おやつ作りを職員と共に行い食べる楽しみを心かけている 準備、片づけは職員で対応している	食事に関しては外部業者からの、配食サービスを使っているのが、職員のみが携わっているが、昔ながらの食材で調理をするときは、ご利用者にごしらえのお手伝いをしてもらっている。また月に数回、職員とおやつ作りをしており楽しまれている。	外部業者の配食サービスを利用しているが、職員が日頃から入居者に食べたいものを聞き取り、手作りおやつや、誕生会、クリスマス会、敬老の日等には特別メニューを設け、楽しく食事ができるよう行事食に力を入れている。敷地内の畑で収穫したさつま芋を庭で焼いて食べるなど入居者が楽しく食生活が送れる機会づくりに努めている。管理者は外食の機会も徐々に再開したい意向である。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名： みつばち)	実践状況(ユニット名： てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考えられた食事を提供し毎日の食事、水分摂取量を記録し摂取状況を把握している。また、居室に白湯を用意するなど、個々のご希望に合わせて支援している	水分補給については、チェック表に基づいて、各ご利用者の摂取量を把握できている。食事量については、個人の摂取状態を見て形態の変更等行い、栄養バランスが崩れないよう配慮し、食事を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態やADLに応じた口腔ケアを実施している。義歯を使用されている方は夜間に消毒を行い清潔保持に努めている	義歯の方は毎日の洗浄・消毒。自歯の方は声掛けし、丁寧に磨くよう促している。自力にて行えない方は、介助にてブラッシングを行い口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し個々の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行いパット汚染の減少に努めている	排泄チェック表にて排泄パターンを予測し、時間を見てトイレの声掛けを行っている。誘導の際拒否がある方は、座席を立った際などに声掛けし、誘導を行っている。自力にて立位が取れない方は、2名介助にてトイレで排泄できるよう支援している。	入居者それぞれの排泄間隔を把握し、トイレでの排泄に心がけ支援に取り組んでいる。各入居者の排泄量に合った排泄用品を選び、家族の経済的負担に配慮している。的確な排泄介助方法について職員へ指導を行う等、入居者の個別の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し軽運動を行い、日頃から便秘予防を心がけている。自力排便が困難な時は便秘薬の服薬支援を行い排便コントロールしている	出来るだけ自然排便が出来るよう水分補給や体操を行っている。難しい場合は、下剤調整にて排便コントロールを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のADLに合わせ個浴と機械浴に分けて週3回入浴提供している。事前にバイタル測定しご利用者の体調を確認した上で入浴支援を行っている	入浴支援時には、ご利用者の特徴を把握し、同性での入浴支援等個々に合わせた入浴支援を行っている。	入居者1人あたり週3回の入浴支援を行っている。入居者の身体状況に応じて機械浴、または一般浴を使用し、入居者や職員が負担なく心地よい入浴ができるよう支援を行っている。異性介助や同性介助、体調不良や入浴拒否等がある場合は、入居者の希望や状況に応じて入浴する曜日の変更等、臨機応変に支援できる体制を整えている。	ホーム脱衣所は広い空間で圧迫感のない環境となっておりエアコンで室温調整を行っている。尚、冬場の共有空間と脱衣室の温度差につき、職員の体感だけではなく室内外の温度差を温度計により把握し、ヒートショックの予防に繋げることを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションや軽作業など、体を動かして頂き安眠できるよう支援している。また、個々で体調に考慮し午睡していただいている	ご利用者の生活習慣を観察し、ご本人の状態に合わせた支援を行っている。声掛けを大事にし安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は必ず職員2名で氏名、日付け、朝昼夕の事前確認を声を出して服薬支援を行っている。内服薬や状態変化があった場合は情報共有し確認している	各ご利用者の健康状態・アセスメントを確認し服薬の重要性に心掛けている。症状の変化や異変ある際は自身で判断せず、看護師や管理者に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量みや新聞折り、作品作り等ご利用者の個性を生かし無理のない範囲での活動を支援している	レクリエーションを通して、ご利用者の笑いが出るよう努力している。季節に応じてドライブや各イベント行い、楽しみを感じて頂いている。又個人の出来る事、やりたい事を探し個人、に合わせた作業など提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日は気分転換に施設周辺を散歩したり庭でおやつを召し上がって頂いている。また、ドライブに出かけられ気分転換と季節を感じられるよう支援している	天候が良く、外出に適した日に、花見ドライブ等喜ばれるような企画を立案し、外出しています。また、敷地内でも、外気に触れながらのおやつや昼食なども企画、実行しています。	コロナ禍以前のような外出支援はできないが、コスモスの花見や、ホーム周辺の散歩、環境整備に力を入れたホームの庭での日光浴等、外気に触れ入居者が気分転換を図れるよう取り組んでいる。今後、管理者は天候や季節を考慮した上で外出する機会を設けたい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っており、ご本人のご希望の物や必需品があった際は、ご家族の了承を頂き購入している	基本的に、入所者様の所持金は、事務所金庫に預かるようにして、外出時でお買い物をする時にご本人にお渡しし、買い物をして頂く形を取らせて頂いています。欲しい物がある際は、一緒に買い物に行くこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に電話を希望された際は対応し、ご家族から手紙や贈り物が届いた際は、お礼の電話でご本人の近況をお伝えしている。また、LINEを使用し写真を送らせていただいている	ご家族からのお手紙や贈り物などは、入所者様が生活していく上での力になると考え、必ずご本人様へお渡しと説明をし、思い出を聞かせて頂くようにしています。ご家族がご本人様との通話を希望される時には、取り次ぐ事もしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く柔らかな照明を使用し室温もご利用者が快適に過ごせるよう配慮している。壁面には行事や生活風景の写真を掲載し生活、季節感を取り入れ工夫している	安全、清潔を考え、整理整頓に取り組んでいます。朝の起床後には各居室のカーテンを開き換気。昼食、夕食後の厨房清掃、それ以外に周辺含め、共用空間の清掃を実施しています。空調使用時には、共用空間及び各居室の温度調節、共用空間の照明器具管理を行っています。共用空間の壁面に、季節感が感じられるような装飾物を掲示しています。	共有空間は季節に応じた壁紙や季節感のある飾りつけが施されている。清掃も行き届き、臭気対策だけでなく、感染症防止のために定期的な換気を行っている。週2回、2ユニット合同でレクリエーションができるフロアもあり、広々とした空間で入居者が自由に過ごせる環境が整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: みつばち)	実践状況(ユニット名: てんとうむし)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思い に過ごせるような居場所の工夫をし ている	ご利用者の関係性を考慮し共有空 間の中でテーブル席を配置し快適な 居場所作りを工夫している	共用空間での座席の配置には、特 に気を配り、入所者様の相性や生活 動線等を考慮して、席順を決めてい ます。共用空間から少し離れた廊下 にソファを設置し、見守りが出来なが ら一人になれるような配慮も行って います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人 や家族と相談しながら、使い慣れた ものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫を している	居室にはご本人の使い慣れた物や 好みの物を使用できるよう配慮し居 心地よく過ごせる場所を心がけてい る	入所時にご家族と相談し、思い入れ のある家具などがあれば、居室に持 ちこんで頂き、使って頂くようにして います。 尚、入所中、ご本人の ADL低下などが見られた場合は、そ の都度ユニット内で検討の上、ご 家族に連絡して、安全の観点から、 配置を見直す場合もあります。	入居時に入居者及び家族へ本人の馴 染みのものを持ち込むことができるこ とを説明し、入居者が安心して居心地よく 生活できるよう支援している。定期的に 清掃された居室は清潔な環境を保って いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」「わかること」を活かして、安全か つできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	安全な環境作りを行い、居室やトイ レの表示等ご利用者に分かりやすい 様に工夫している	共用空間で、入所者の生活動線に 合わせた席の配置、動線上の整理 整頓等を行っています。トイレ/居室 には張り紙をし、分かり易いように工 夫をしています。		